

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年12月05日

計画の名称	名鉄春日井駅を拠点とした安全で快適なまちづくり											
計画の期間	平成29年度 ~ 令和03年度 (5年間)										重点配分対象の該当	○
交付対象	春日井市											
計画の目標	<p>春日井市は、名古屋圏を代表する生活都市として着実な歩みを重ねてきており、市街化区域の大部分が土地区画整理事業により整備され、良好な市街地形成が進められている。</p> <p>本市の北西部に位置する本地区は、名古屋市と小牧市を始めとした県北部の都市を結ぶ名古屋鉄道小牧線と県道名古屋犬山線が南北に縦断し、名古屋鉄道小牧線春日井駅を含んでいるため交通の利便性が高い地区であるが、駅周辺は駅前広場もなく、駅利用者の駅へのアクセスに支障がある状態となっている。</p> <p>また、地区内はスプロール化により狭隘道路が多数存在し、緊急車両の通行が困難な箇所や、雨水排水施設も未整備のため浸水被害も発生している。</p> <p>このため、市街地整備事業を実施し、道路、公園、排水施設などの公共施設を整備することで、地区内の安全性と防災性の向上を図るとともに、名古屋鉄道小牧線春日井駅を中心としたコンパクトシティを目指したまちづくりを実施し、本市西部の地域拠点にふさわしい、魅力と賑わいのあるまちづくりを目的とする。</p>											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,568	A	1,568	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H27末)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H33末)
1	市街地整備事業を施行し安全で快適なまちづくりを図ることで、名古屋鉄道小牧線春日井駅の乗降客数を3,340人に増加させる。 名古屋鉄道小牧線春日井駅乗降客数 名古屋鉄道小牧線春日井駅の1日当たりの乗降客数を計測する	2961人/日	3100人/日	3340人/日
2	市街地整備事業により公共施設を改善し、地区内すべての宅地を4m以上の幅員のある道路に接道させることで、地区内の安全性と防災性の向上を図る。 道路未接続宅地率 道路未接続の宅地面積 / 地区全体の宅地面積 × 100%	39%	39%	29%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	春日井市	間接	土地区画整理組合	-	-	春日井西部第一土地区画整理事業(2-A-1)	都市再生区画整理 A = 36.7h a	春日井市						560	1.18	-
	A13-002	市街地	一般	春日井市	間接	土地区画整理組合	-	-	春日井西部第二土地区画整理事業(2-A-2)	都市再生区画整理 A = 49.5h a	春日井市						1,008	1.27	-
											小計						1,568		
											合計						1,568		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
組合土地区画整理事業の運営支援を行っている、春日井市まちづくり推進部都市整備課にて事後評価を実施した。	令和4年9月
	公表の方法 春日井市ホームページで公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業による区画道路の整備を実施したことにより、着実に未接道宅地率が減少している。 ・市街地整備事業の進捗により、計画当初の平成29年度から令和元年度にかけて名鉄春日井駅の利用者は微増傾向にあった。しかし、令和元年度より流行した新型コロナウイルスの影響により、計画期間内の乗降客数が大幅に減少した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き土地区画整理事業を進めていき、都市基盤整備による良好な住環境の形成を図るとともに、駅周辺の交通結節点機能の強化により駅利用者の増加を目指す。 ・計画的に道路整備を進めるため、余裕を持ったスケジュールで補償交渉に着手する。また、計画的に補償交渉が進まない箇所がある場合は、代替の補償交渉を臨機応変に進めていき、事業全体スケジュールに影響を及ぼさないように対応する。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	人 / 日		
	最終目標値	3340人/日	令和元年度より流行した新型コロナウイルスの影響により、乗降客数が大幅に減少したと考えられる。今後は、道路および造成工事と合わせた駅周辺整備を実施することで、利便性が向上し、乗降客数の増加が見込まれる。
	最終実績値	2512人/日	
2	%		
	最終目標値	29%	土地区画整理事業による区画道路の整備に伴い、道路未接続宅地率は着実に減少している。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、補償交渉に想定以上の時間を要したため、最終目標値を下回る結果となった。
	最終実績値	38%	